

平成25年度
(平成24年度対象)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第1項に基づく

教育委員会の点検・評価

印西市教育委員会

目 次

はじめに	1 頁
1 趣旨	2 頁
2 点検評価の対象	2 頁
3 点検評価の方法	2 頁
4 点検評価結果の構成	2 頁
参考 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 (第27条)	3 頁
5 印西市の教育施策	4 頁
6 主な施策	5 頁
印西市の「教育施策の体系」	7 頁
点検評価結果	9 頁
目次	10 頁
評価結果	11 頁
おわりに	27 頁
1 評価内訳	29 頁
2 施策別評価	30 頁
3 まとめ	30 頁

はじめに

1 趣旨

市教育委員会では、平成17年度から教育施策の基調を「健やかな心と体を育む教育」と定め、この基調による目標のもと、実施に努めているところですが、平成19年6月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、「教育委員会は、毎年その教育行政事務の管理執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表すること」となりました。昨年度は、平成23年度「印西市の教育施策」について「点検・評価」を実施し、各分野の学識経験者の皆様よりご意見をいただき、報告書を取りまとめ、公表しました。この「内部点検評価」の作業及びいただいたご意見を参考にすることで、平成24年度中に施策の進捗状況を再確認し、効果的な施策の展開に寄与することができたと考えております。

今年度も平成24年度の「印西市の教育施策」について「点検・評価」を実施し、報告書に取りまとめました。これを公表し、市民のみなさまからご意見をいただき、よりよい教育の実現に向けて、取り組みを進めてまいりたいと考えています。

2 点検評価の対象

点検評価の対象は、平成24年度版印西市の教育施策（以下「教育施策」という。）における事業の実施内容について、点検を行い、印西市教育委員会としての自己評価を報告書としてまとめました。

3 点検評価の方法

点検評価の方法は、教育施策中の「主な事業」毎に、平成24年度に実施した実施内容及び実績を明らかにするとともに、それに基づいた施策の内部評価を客観的に行い、課題を分析し、今後の事業に活かすものとします。なお、法律に明記されている「学識経験を有する者の知見の活用」については、学校教育、生涯学習、スポーツ振興それぞれの分野の学識経験者の皆様（元市学校長、元市社会教育指導員、市体育協会役員）に、御意見をいただきました。

（点検評価の流れ）

○事業点検…主な事業毎の事業内容点検（点検者：担当課長）

↓

○施策評価…主な事業評価（評価者：教育長、部長。学識経験者知見活用）

↓

○総合評価…教育委員会会議における最終評価（評価者：教育委員）

4 点検評価結果の構成

教育施策中の「主な施策」毎の「主な事業」における「事業内容」を平成24年度に実施すべき事業目標と位置付け、この実施状況について点検を行い、

「主な事業」毎に内部評価しています。

表の項目について

- 事業……「主な事業」毎に掲げている事業です。
- 事業内容（平成24年度目標）……事業の具体的内容です。教育施策は、平成24年度の事業計画書であり、教育施策中の主な事業における「事業内容」は、実施すべき具体的事業内容であることから、（平成24年度目標）と位置付けています。
- 平成24年度実績……平成24年度目標に対し、実際に実施した事業の内容、回数などを具体的に記載しています。
- 施策評価……「主な事業」毎に、事業の進捗を点検し、印西市教育委員会が内部評価しました。評価指標は「A、B、C」の三段階評価とし、以下の内容を基準としています。
 - A 事業の目標が達成され、計画以上の施策の進捗が認められる。
 - B 事業の目標が概ね達成され、施策の進捗が認められる。
 - C 未達成事業が多く、施策の進捗がほとんど認められない。
- 評価理由……「A、B、C」の評価を行った理由を示しています。
- 今後の課題……重点施策の実現に向けて、今後の方向性を示しています。

《参 考》地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

〔昭和31年6月30日法律第162号〕

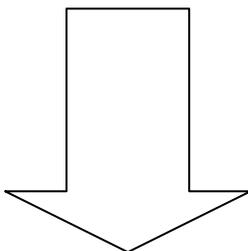
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

教育施策の基調

健やかな心と体を育む教育



主な政策と施策

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

- ◇健やかな心と体を育む教育の推進
- ◇活力ある学校づくり
- ◇学校・家庭・地域の連携強化

I. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する

〔生涯学習・生涯スポーツ〕

- ◇生涯学習活動の支援
- ◇生涯学習推進体制の充実
- ◇青少年の健全育成
- ◇スポーツ環境の整備・充実
- ◇スポーツ推進体制の充実

III. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る〔文化〕

- ◇文化・芸術活動の推進
- ◇文化財の保護・活用
- ◇市史編さん事業の推進

6 主な施策

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

21世紀の変化の激しい社会を担う子供たちには、基礎基本の学力を確実に身につけ、いかに社会が変化しようとする課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力及び自らを律しつつ、他と共に協調し、人を思いやる心、たくましく生きるための力が求められている。

その中でも本市は、特に健やかな心と体を育む教育を基調とし、道徳教育の充実や豊かな体験活動、情報教育やICT活用の推進、芸術文化体験事業や読書活動の推進、教科体育の充実、運動部活動の推進や小学校駅伝競走大会、食育や生活習慣づくりなどを通して健やかな心と体の育成に向けて取り組んでいく。

さらに、教職員の専門性と指導力の向上を図り、子供の学ぶ意欲の向上に努め、生涯学習の基礎づくりをめざす。

II. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する〔生涯学習・生涯スポーツ〕

生活水準の向上や余暇時間の増大等により、日々の暮らしに生きがいを感じ、心豊かで充実した生活を送れるよう、生涯にわたって学習できることが重要となってきた。

また、国際化・少子高齢化・情報化等の進展により、市民の価値観も多様化し、身近な地域や家庭生活でも大きな変化に直面しており、絶えず正しい情報を見極め、個人の適性に応じた知識や技術を習得し、活用していく必要性が高まっている。

こうした市民の多様な学習ニーズと現代的課題に適切に対応するため、多様な生涯学習情報と公民館・図書館等の学習活動の場を提供することにより、学習機会の拡充を図り、「いつでも・どこでも・だれでも」生涯にわたってさまざまな分野で自ら学ぶことのできる学習環境をつくり、市民の生涯学習活動を推進する。

また、社会教育関連施設の連携を深め、協力体制を構築することにより、生涯学習推進体制の充実を図る。

さらに、公立幼稚園・小中学校の協力を得、家庭の教育力の向上を図るとともに、関連機関・団体等と連携し、地域活動や世代間交流を促進することにより、青少年の健全育成を推進する。

スポーツ・レクリエーション活動は、市民の「こころ」と「からだ」の健全な発展をうながし、明るく豊かで活力に満ちた生きがいある社会の形成に寄与するものである。しかし、社会背景の変化に伴い、運動不足や体力の低下が問題となってきた。

このような状況の中で、当市においても高齢化の進展、余暇時間の増大、そしてライフスタイルの個性化・多様化などにより、スポーツに対する関心が高まり、気軽にスポーツ・レクリエーション活動へ参加できる機会の拡充が強く求められている。

このことから、市民が心身ともにたくましく健康で明るい生活が送れるよう、生涯にわたってそれぞれの体力や年齢に応じたスポーツ・レクリエーション活動に親しめる機会の拡充を一層推進する。

Ⅲ．心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る〔文化〕

私たちを取り巻く社会環境の大きな変化に伴い、多様なライフスタイルが追求され、暮らしに生きがいやゆとり、潤いをもたらす文化的価値が重視されてきている。

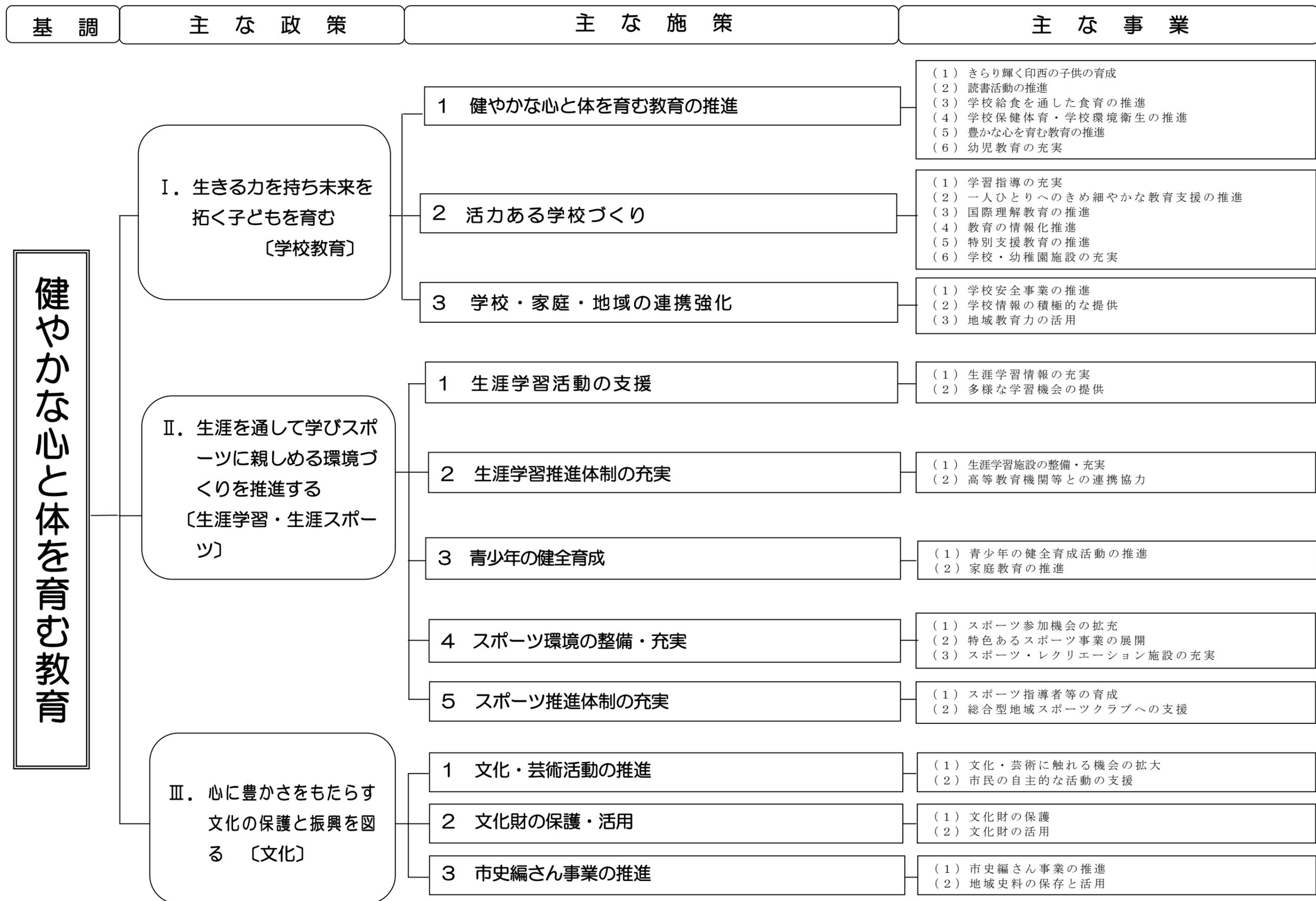
こうした中で、市民一人一人がゆとりある充実した生活をおくるためには、文化に親しみ、自ら文化創造の担い手となることを基本として、魅力に富んだ地域文化の形成が求められている。

また、文化は古くからその地域の自然・歴史・伝統と共存しながら、そこに住む人々の長い生活の営みによって生まれ、独自のものを形成してきた。ところが、昨今の急激な都市化の進展に伴い、社会構造や生活環境が大きく変貌する中で、伝承されてきた生活技術や習慣の多くが忘れ去られようとしている。

このことから、市民の自主的で創造的な文化芸術活動の推進や市民の文化芸術に対する関心を高めるため学習機会や学習情報の提供などを積極的に行い、ゆとりと潤いのある文化芸術活動の盛んなまちづくりを展開する。

さらに、市民の心のよりどころとなる文化遺産を保護し、次の世代に継承するため、積極的に調査研究するとともに、その保存・活用に努め、伝承文化の振興を図る。

印西市の教育施策の体系



点検評価結果

点検評価結果 目次

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

1 健やかな心と体を育む教育の推進

(1) きらり輝く印西の子供の育成	11頁
(2) 読書活動の推進	11頁
(3) 学校給食を通じた食育の推進	11頁
(4) 学校保健体育・学校環境衛生の推進	12頁
(5) 豊かな心を育む教育の推進	13頁
(6) 幼児教育の充実	13頁

2 活力ある学校づくり

(1) 学習指導の充実	13頁
(2) 一人ひとりへのきめ細やかな教育支援の推進	15頁
(3) 国際理解教育の推進	15頁
(4) 教育の情報化推進	15頁
(5) 特別支援教育の推進	16頁
(6) 学校・幼稚園施設の充実	16頁

3 学校・家庭・地域の連携強化

(1) 学校安全事業の推進	17頁
(2) 学校情報の積極的な提供	17頁
(3) 地域教育力の活用	18頁

II. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する

〔生涯学習・生涯スポーツ〕

1 生涯学習活動の支援

(1) 生涯学習情報の充実	19頁
(2) 多様な学習機会の提供	19頁

2 生涯学習推進体制の充実

(1) 生涯学習施設の整備・充実	20頁
(2) 高等教育機関等との連携協力	20頁

3 青少年の健全育成

(1) 青少年の健全育成活動の推進	21頁
(2) 家庭教育の推進	21頁

4 スポーツ環境の整備・充実

(1) スポーツ参加機会の拡充	22頁
(2) 特色あるスポーツ事業の展開	22頁
(3) スポーツ・レクリエーション施設の充実	23頁

5 スポーツ推進体制の充実

(1) スポーツ指導者等の育成	23頁
(2) 総合型地域スポーツクラブへの支援	24頁

III. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る〔文化〕

1 文化・芸術活動の推進

(1) 芸術・文化に触れる機会の拡大	24頁
(2) 市民の自主的な活動の支援	24頁

2 文化財の保護・活用

(1) 文化財の保護	25頁
(2) 文化財の活用	25頁

3 市史編さん事業の推進

(1) 市史編さん事業の推進	26頁
(2) 地域史料の保存と活用	26頁

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む[学校教育]

1 健やかな心と体を育む教育の推進

(1) きらり輝く印西の子供の育成

事業	事業内容 (平成24年度目標)	平成24年度実績
①きらり輝く印西の子供育成	<ul style="list-style-type: none"> ○特色ある教育活動推進事業 ○小学校駅伝競走大会の開催 ○ものづくり体験学習の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○特色ある教育活動が特に顕著な10校を中心に、全ての学校の教育活動を支援した。 ○小学校20校の参加により実施。男女合わせて69チームが出場した。 ○木下小学校及び木刈小学校においてものづくり教室を開催し、講師の匠の技に触れさせることができた。

施策評価	B
評価理由	三つの事業を通して、印西教育の特色を打ち出すことができた。
今後の課題	ものづくり体験学習の年間当たりの実施校を増やしていくこと。

(2) 読書活動の推進

事業	事業内容 (平成24年度目標)	平成24年度実績
①図書館教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館図書の資料の整備充実 ○読書の奨励と指導の充実 ○市図書館司書との連携事業の開催 ○学校図書館司書の配置 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒用学校図書の購入にあたり、情報交換会を行った。 ○図書ボランティアによる読み聞かせ、図書館だよりの発行等を実施した。 ○学校図書館担当者を含めた会議を2回、学校図書館司書と市図書館司書との連絡会を年5回実施した。 ○全中学校への配置を行った。

施策評価	B
評価理由	学校図書館システムの定着及び学校図書館司書の全中学校配置により、学校図書館環境の充実が図られた。
今後の課題	学校図書館司書の小学校配置日数を確保すること。

(3) 学校給食を通じた食育の推進

事業	事業内容 (平成24年度目標)	平成24年度実績
①食に関する指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○栄養士による栄養教室の開催 (全小学校1・3年生対象) ○生活習慣病予防教室 (全小学校5年生・全中学校1年生対象) ○望ましい食習慣の形成 ○「食に関する指導」の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○全小学校1年生・3年生を対象とした栄養教室を実施した。 ○学校給食センター栄養士が小学校5年生及び中学校1年生を対象に小児生活習慣病予防のための指導を行った。 ○学校給食センター栄養士が小学校5年生及び中学校1年生を対象に小児生活習慣病予防のための指導を行った。 ○給食センター栄養士との連携を図り、授業支援を行った。
②学校給食の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○献立の工夫と改善 ○衛生管理の徹底 ○給食残渣等の再資源化 	<ul style="list-style-type: none"> ○千葉県産食材を6割以上使用し、千産千消を推進した。 ○真空冷却機の導入により、適切な温度管理が行えた。 ○給食残渣の堆肥化を業者に委託し、その再資源化を図った。

施策評価	B
評価理由	学校給食について、印西市産の食材を多く使用し、地産地消を推進した。
今後の課題	残渣を減らすために、食に関する学習を一層充実させること。

(4) 学校保健体育・学校環境衛生の推進

事業	事業内容（平成24年度目標）	平成24年度実績
①学校体育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○体育主任会議及び体育科研修会の開催 ○体力・運動能力調査の結果分析と活用 ○小学校陸上大会及び千葉県小中学校体育連盟印旛支部行事への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○会議を1回、実技研修会を2回実施した。 ○テスト結果を分析し、学校保健体育事業の改善を図った。 ○役員の派遣並びに児童送迎用のバスの配車を行った。
②運動部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○外部人材の活用推進 ○各種大会への参加支援 ○中学校運動部活動サポーターの派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ○外部人材に関する情報を学校に提供し、連絡調整及び補助金の交付を行うことにより活用を図った。 ○各種県大会及び関東大会並びに全国大会の交通費等の経費について支援を行った。 ○20名の部活動サポーターを派遣し、競技力の向上を図った。
③健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○保健指導教材の整備 ○薬物乱用防止教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○保健指導教材（血管モデル）を各学校へ貸し出し、事業の充実に努めた。 ○歯科保健指導教材（位相差顕微鏡・かみかみセンサー）を各学校へ貸し出し、歯科保健事業の充実に努めた。 ○北総地区少年センター職員を講師とし、薬物乱用防止教室を実施した。
④学校保健会の活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○学校医、学校歯科医、学校薬剤師との連携 ○各専門部会（学校薬剤師、栄養士、養護教諭）の活動の支援 ○「印西市の学校保健」（小冊子）と学校保健会報の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校保健会理事会を1回開催した。 ○学校薬剤師部会2回、栄養士部会3回、養護教諭部会5回をそれぞれ開催した。 ○「印西市の学校保健」（小冊子）年1回と学校保健会報を年3回発行した。
⑤健康診断の実施と事後措置の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ○就学前児・児童・生徒の健康診断の実施 ○健康診断結果の集計と分析 ○個別指導の充実（治療勧告） 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒への定期健康診断（内科・歯科・耳鼻科・眼科・尿検査・結核等）及び就学時健康診断を実施した。 ○健康診断結果を集計・分析し、「印西市の学校保健」にまとめた。 ○健康診断結果に基づき、個別指導を実施した。
⑥小児生活習慣病の予防	<ul style="list-style-type: none"> ○小児生活習慣病予防検討部会の開催 ○小児生活習慣病予防検診の実施（小学校5年生、中学校1・3年生対象） 	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回開催し、結果に基づいた事後指導等について検討した。 ○小学5年生、中学1年生・3年生を対象に実施するとともに、事後指導を行った。
⑦口腔衛生事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○歯科保健検討部会の開催 ○予防教室の実施（ブラッシング指導） 	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回開催し、その結果に基づいた事後指導及びブラッシング指導等について検討した。 ○各小中学校において、学校歯科医又は歯科衛生士等による歯科衛生教育、ブラッシング指導を実施した。
⑧保健室機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○カウンセリング機能の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○養護教諭を対象とした研修を実施した。
⑨学校環境衛生の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○環境衛生検査の実施（水質検査、照度検査、空気検査等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○照度・照明検査、飲料水・プール水質検査、空気環境検査（ホルムアルデヒド・二酸化炭素・二酸化窒素）、ダニアレルゲン検査、配膳室衛生検査を実施した。

施策評価	B
評価理由	健康教育を教育課程に位置付け、健康の維持増進に努めた。
今後の課題	中学校保健体育における武道の外部指導者の派遣体制の充実及び安全管理を徹底すること。

(5) 豊かな心を育む教育の推進

事業	事業内容 (平成24年度目標)	平成24年度実績
① 道徳教育の充実	○道徳教育全体計画の改善と道徳教育の充実 ○道徳的実践力を育成する道徳授業の充実	○全小中学校において道徳の授業研究を実施し、授業力の向上を図った。 ○道徳集中研修会を主催し、全小中学校において授業研究を通じた授業改善の機会を設けた。
② 豊かな体験活動の推進	○ボランティア活動、交流体験活動等の推進 ○みどりの少年団活動の推進 (全小中学校)	○各学校の教育活動に位置付け、実施した。 ○全小中学校が参加し、栽培活動や自然体験活動等を行った。
③ 人権教育の推進	○人権教育全体計画の改善と指導の充実	○全ての小中学校において、人権研修会を実施した。また法令等を再認識し、学校での取り組みについて指導した。
④ 郷土愛を育む教育の推進	○学校・地域の歴史資料室の設置と活用	○地域や学校の特色を活かした歴史資料室を設置し、社会科や総合的な学習の時間において活用を図った。
⑤ 芸術文化体験事業の充実	○さわやかハートフルコンサートの開催 ○小学校芸術鑑賞教室の開催	○全小中学校が参加し、合奏と合唱を行った。 ○小学校6年生を対象に古典芸能である狂言と落語を鑑賞した。

施策評価	B
評価理由	様々な人々や自然等との交流体験活動を通して、豊かな心を育むことができた。
今後の課題	一つ一つの事業をよく検証し、学校間で情報を共有させ、その成果を基により効果的な事業の展開に努めること。

(6) 幼児教育の充実

事業	事業内容 (平成24年度目標)	平成24年度実績
① 幼稚園職員研修の充実	○保育実技研修への参加奨励 ○園内研修会の開催	○夏季保育実技研修会へ参加した。(2日間) ○リズム体操の研修(2回)及び特別支援教育研修(2回)を実施した。

施策評価	B
評価理由	職員の専門性や実践力の向上など、一定の成果が見られたが、園内研修については子ども達の状況に応じた研修内容の見直しと充実に努める必要がある。
今後の課題	子どもの年齢に応じた発達を促し、一人ひとりの個性や可能性を伸ばしていけるよう、幼児教育に関する各種研修会への積極的な参加や園内研修の質の向上に努める。

2 活力ある学校づくり

(1) 学習指導の充実

事業	事業内容 (平成24年度目標)	平成24年度実績
① 確かな学力を育み、個性や能力を伸ばす教育の推進	○生徒指導の機能を生かした授業づくり ○基礎学力向上の推進 (ドリルタイム等) ○個に応じた指導方法の工夫・改善及び指導体制の充実 ○ICTを活用した授業づくり ○学力向上プロジェクトの実施 ○学校支援ボランティア・学生ボランティアの活用 (東京電機大学, 順天堂大学, 聖徳大学, 日本医科大学看護専門学校との連携) ○教職インターンシップ「あすなる先生」の派遣 (秀明大学との連携) ○少人数学習指導員の配置	○学校の要請等により生徒指導等, 年775回指導にあたった。 ○各学校にドリルタイムを設定し, 計算・漢字等の基礎学力の向上を図った。 ○少人数指導や学級編制の弾力的運用を通して, きめ細かな指導を行った。 ○電子黒板を使った授業づくりについて, 重点的な支援を行った。 ○全教職員が学習指導案を作成し, 授業研究を行い指導力の向上を図った。また積極的に指導主事を派遣した。 ○594名のボランティアを延べ13, 354回活用し, 学習指導の充実と学校環境の整備を図った。 ○小中学校に25名派遣し, 学校の活性化を図ることができた。 ○小学校に5名配置した。

②教育課題調査・研究・開発	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力調査と活用 ○教育に関する調査・研究・開発 ○教育研究の奨励・普及 ○教材の研究開発 	<ul style="list-style-type: none"> ○千葉県標準学力検査結果の分析と考察を行い、各学校等に配布した。 ○学習意識・生活状況調査を実施した。 ○学校研修のあり方、教科指導等に関する情報の提供を適宜行った。 ○新教育課程に対応した学習指導の方法に関する研究を行った。
③教職員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○教務主任研修会の開催 ○生徒指導担当者研修会の開催 ○情報教育研修会の開催 ○国際理解教育担当者研修会の開催 ○学校図書館担当者研修会の開催 ○体育主任等研修会の開催 ○安全主任等研修会の開催 ○養護教諭研修会の開催 ○特別支援教育コーディネーター研修会の開催 ○教育相談研修会の開催 ○道徳教育研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○全小中学校で教育課程の編成について研修した。 ○各小中学校において年2回の研修会を実施した。 ○各小中学校において年2回の研修会を実施した。 ○ALTとの授業の活用方法について、年2回研修会を実施した。 ○図書館担当の役割と市立図書館との連携について、研修会を実施した。 ○全小中学校体育主任等を対象に年2回研修会を実施した。 ○学校安全マップ及び市防災マニュアルの作成について、研修会を実施した。 ○校務システムの活用方法についての研修会を実施した。 ○役割とその取組についての研修会を実施した。 ○不登校・学校経営を中心に2回の研修会を実施した。 ○理論研修・実践研修・実践報告会の順で研修会を実施した。
④新教育課程実施への支援	<ul style="list-style-type: none"> ○新教育課程の編成及び実施の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○研修会や関係資料の情報提供を実施した。
⑤校内研修の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研修での指導・助言 ○評価についての研修の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○思考・判断・表現力の育成を行った。 ○学校の要請による授業研究会等において、評価規準や評価方法についての指導を行った。
⑥指導法等の研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○教材研究等に関する研修会の開催 ○学習指導法等に関する研修会の開催 ○実技研修会の開催 ○ICT活用研修会の開催 ○情報教育研修会の開催 ○特別支援教育研修会の開催 ○人権教育研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育センターにおいて、14講座435名の参加があり、指導力の向上に努めた。(含学習指導法) ○教育センターにおいて、14講座435名の参加があり、指導力の向上に努めた。(含教材研究) ○体育科、理科やICT関連の実技研修を実施した。 ○ICT関連の実技研修を実施した。 ○教科指導における情報教育やICT活用研修を実施した。 ○介助員を含めた研修を年2回実施した。また、通常学級における特別支援教育の研修会を実施した。 ○全小中学校において、人権研修を実施し、指導主事が指導にあたった。
⑦市教育研究会支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員による自主講座の開催 ○市教育研究会運営支援 ○市教育研究会への指導・助言 ○各研究団体の活動支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中教職員38名を対象に管理運営に関する研修を実施した。 ○指導主事の派遣による指導助言を行った。 ○要請に応じ、指導主事を派遣した。

施策評価	B
評価理由	学力・健康体育の向上を目指し、指導主事を積極的に学校に派遣し、指導・助言にあたった。また、児童生徒の学力・体力・社会性の向上を図ることができた。
今後の課題	事業内容の具体的な実践の見直しを図ること。

(2) 一人ひとりへのきめ細やかな教育支援の推進

事業	事業内容（平成24年度目標）	平成24年度実績
①適応指導教室事業の推進	<input type="checkbox"/> 適応指導教室の充実 <input type="checkbox"/> 連絡会の実施	<input type="checkbox"/> 25名の通室者があり、そのうち17名が復帰した。 <input type="checkbox"/> 本人や保護者、学校関係者とのケース会議を個の状況に応じて月1回程度実施した。 <input type="checkbox"/> 月1回、保護者会（あったまる会）を実施し、保護者の心のケアを図った。
①教育相談事業の推進	<input type="checkbox"/> 面接相談・電話相談の充実 <input type="checkbox"/> 不登校児童生徒等の相談の充実 <input type="checkbox"/> 関係機関との連携 <input type="checkbox"/> 訪問指導の充実 <input type="checkbox"/> スクールカウンセラーの活用	<input type="checkbox"/> 教育相談室 面接相談208件、電話相談187件への対応を行った。 <input type="checkbox"/> 相談員や指導主事が電話相談や面談で相談を行った。 <input type="checkbox"/> スクールカウンセラーや医療機関等と連携して対応を行った。 <input type="checkbox"/> 訪問指導の必要に応じて実施した。 <input type="checkbox"/> 各中学校に1名配置。教育相談の充実を図った。

施策評価	B
評価理由	半数以上の児童・生徒が学校へ復帰した。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に応じた支援を行い、さらに復帰者の増加を図ること。 相談業務の充実を図ること。

(3) 国際理解教育の推進

事業	事業内容（平成24年度目標）	平成24年度実績
①国際理解教育の推進	<input type="checkbox"/> 外国語指導助手（ALT）の活用 <input type="checkbox"/> 日本語指導員の派遣 <input type="checkbox"/> 小学校高学年における外国語活動の充実	<input type="checkbox"/> ALTを全幼稚園・小・中学校に合計10名配置した。 <input type="checkbox"/> 日本語を解せない児童生徒のために日本語指導員3名を4校に派遣した。 <input type="checkbox"/> 全小学校5・6年生における外国語活動を実施した。

施策評価	B
評価理由	ALT10名を活用し、全幼稚園・小・中学校において国際理解教育の推進を図り、成果を上げることができた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 小学校と中学校の指導の更なる連携を推進すること。 児童生徒の理解につながる指導方法の改善に努めること。

(4) 教育の情報化推進

事業	事業内容（平成24年度目標）	平成24年度実績
①教育関係資料収集・活用・教育広報	<input type="checkbox"/> 教育資料の収集・活用・提供 <input type="checkbox"/> 学校間グループウェアと文書管理システムを活用した教育関係資料・各種文書の電子化及び共有化 <input type="checkbox"/> 教育センターホームページによる教育広報推進 <input type="checkbox"/> 学校ホームページ及びメール配信システムの広報的機能強化	<input type="checkbox"/> 報告書やHP等で教育情報の収集整理等を実施した。また、指導案をデータベース化し、市内職員が参照できるようにした。 <input type="checkbox"/> 各種教材資料の共有化を図った。 <input type="checkbox"/> 各種教育情報の提供を実施した。 <input type="checkbox"/> 学校ホームページ作成、メール配信運用支援を行った。
②情報教育及びICT活用の推進	<input type="checkbox"/> 教科指導用ICT関連環境整備 <input type="checkbox"/> 校務システムの機能充実	<input type="checkbox"/> デジタル教科書を使った授業の支援を行った。 <input type="checkbox"/> 校務システムに関しては、現状維持。運用の支援を行った。

	<ul style="list-style-type: none"> ○各種公募や文書，教育情報の電子化 ○各システムやサーバー・端末等及び教育情報の適正な運用管理並びに情報セキュリティの教科 ○教育C I O及びI C T支援員の配置，ヘルプデスクの設置 ○情報教育及び教科におけるI C T活用に関する研修の開催及び各学校への出前講座実施 ○校務システムを活用した学籍・成績・保健等の校務情報化推進 ○学校図書館システムの活用推進 ○学生ボランティアの派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ○公募や養護教諭，事務などの情報共有化の支援を行った。 ○教育センターの指導主事が対応した。 ○実績なし。指導主事が対応した。 ○I C T研修会やI C Tを使った授業の研修を実施。指導主事による出前講座の支援を実施した。 ○指導要録，出席簿，通知表等の管理作成の支援を行った。 ○学校図書館システム活用の研修を年間2回行い，全校で蔵書点検を実施した。 ○学生ボランティア1名を小学校に派遣した。
--	---	---

施策評価	B
評価理由	校務システム導入によりセキュリティの強化を図ることができた。また，情報の環境を整理し，ホームページでの広報活動に努めることができた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校のP C リブレイス，さらに職員が校務システムを効率よく活用できるようにすること。 ・I C T支援員の配置を行うこと。

(5) 特別支援教育の推進

事業	事業内容（平成24年度目標）	平成24年度実績
①特別支援学級の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○個別指導計画の作成と活用 ○特別支援学級介助員の配置 	<ul style="list-style-type: none"> ○個別指導計画を作成し，一人一人に対応した指導を行った。 ○32名を配置した。
②就学指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○就学指導委員会の開催 ○早期就学相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○10名の委員により，年2回開催した。 ○5月に「就学相談会」を実施した。また年間を通し，個別的就学相談を実施した。
③通常学級に在籍する発達障害児童・生徒の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○通常学級指導員の配置 ○校内支援体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○47名を配置した。 ○特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育研修を定期的に開催した。

施策評価	B
評価理由	特別に支援を要する児童生徒の実態に応じ，通常学級指導員や介助員の適切な配置ができた。また，関係機関と連携し，早期就学相談を実施，円滑な支援教育・就学の充実を図れるようになってきた。
今後の課題	就学前児童の教育相談ファイルの存在を周知を目的にリーフレットを作成するとともに，成果と課題を分析し更に充実した内容とすることで，有効な活用を図っていくこと。

(6) 学校・幼稚園施設の充実

事業	事業内容（平成24年度目標）	平成24年度実績
①安全な学校施設の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○小・中学校施設の整備・充実 ○「印西市放射性物質除染実施計画」に基づく除染 	<ul style="list-style-type: none"> ○全小・中学校の耐震改修が完了し，安全確保が図れた。 ○計画に基づく除染作業が完了し，放射性物質に対する安全確保が図れた。
②ゆとりと潤いのある学校施設づくりの推進	○小・中学校施設の改修及び校庭整備の充実	○音楽室等に空調を設置し，学習環境の改善に努めた。
③学校施設の有効活用	○余裕教室活用指針に基づく有効活用の推進	○一時的余裕教室を少人数教室や他の学習スペースとして活用し，施設の有効利用に努めた。
④設備・備品等の整備充実	○小・中学校及び公立幼稚園の計画的な備品整備	○管理・教材・図書等の各種備品については，幼稚園及び小中学校からの要望等を踏まえ，必要性を見極めた適正な整備を進めた。また，中学校においては，学習指導要領の改訂に対応するため，教師用指導書等の整備に努めた。
⑤学区の適正化	○通学区域の検討と部分的な調整	○通学区域の検討や調整を要する開発等が見られなかった。

施策評価	B
評価理由	各種備品については、老朽化対策を含めて整備すべき部分がある。
今後の課題	各種備品を適正に管理するための台帳整備を進める。

3 学校・家庭・地域の連携強化

(1) 学校安全事業の推進

事業	事業内容（平成24年度目標）	平成24年度実績
①安全教育の推進	○交通安全教室の開催 ○防犯教室の開催	○事前打合せ会を行い、市内全小中学校で実施した。 ○市内全小中学校で実施した。
②児童生徒の安全確保	○防災訓練・防犯訓練等の指導・助言 ○緊急対応マニュアル作成の指導・助言 ○防犯ブザーの貸与（全小・中学生対象） ○メール配信システムの活用（全小・中学校） ○防災無線を活用しての見守り活動の推進（児童の声）	○スクールガードリーダーを活用した。 ○緊急対応の実践と見通しを図った。 ○市内全小学生に貸与した。 ○メール配信システムを継続活用し、各学校で家庭への登録を呼びかけるようにした。 ○継続的に実施した。
③学校管理下における災害給付	○日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入	○学校管理下におけるケガ等の災害に対し、災害給付金を給付した。
④通学路の安全確保	○通学路の把握と定期的な点検活動の実施 ○安全マップの改訂・配布・活用	○各学校における点検結果に基づいて、関係諸機関・市各課との合同点検を実施した。 ○安全マップを小学校1年生及び転入生に配布した。

施策評価	B
評価理由	学校安全関連事業及び行事を通して、関係諸機関・市各課との連携体制を構築できた。
今後の課題	定期的な安全点検や事業を実施し、関係諸機関・市各課との連携をより円滑に進めていくこと。

(2) 学校情報の積極的な提供

事業	事業内容（平成24年度目標）	平成24年度実績
①開かれた学校教育の推進	○学校ホームページを活用した学校広報の充実 ○開かれた学校づくりの推進（学校・家庭・地域の連携） ○学校評価による学校教育の改善	○CMSを活用。全ての学校にHPを開設すると共に、更新内容の質と更新頻度が高まった。 ○学校支援ボランティア事業により、各学校における地域人材の活用を支援した。 ○学校評価の結果をHPや学校便りで公表した。

施策評価	B
評価理由	ホームページでの後方については、積極的に取り組む学校が多く、全日本小学校ホームページ大賞で4校が入賞し、1校は全国1位となった。地域との連携も多くの学校で順調に進んでいる。
今後の課題	学校ホームページの活用がやや低調な学校を支援し、開かれた学校づくりをさらに推進していくこと。

(3) 地域教育力の活用

事業	事業内容（平成24年度目標）	平成24年度実績
①交流事業の充実 ②自然体験学習等の推進 ③職業体験学習の推進	○小学校や地域との交流活動の実施 ○自然観察会の実施 ○親子体験学習の実施 ○「夢・仕事びったり体験」の支援（全小学校6年） ○「印西市生き活き体験」の実施（全中学校）	○特別支援学校や幼稚園との交流事業を実施した。 ○年2回開催し、各20組の参加を得た。 ○年3回開催し、各20組の参加を得た。 ○市内165事業所の協力のもとに実施した。 ○市内155事業所の協力のもとに全中学校で実施した。
施策評価	B	
評価理由	H Pや諸活動により地域に開かれた学校となってきた。学校を取り巻く様々な人たちとの交流が図れた。	
今後の課題	学校だけの取組に終わることのないよう、さらに諸機関、地域との連携も図ること。	

Ⅱ. 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する [生涯学習・生涯スポーツ]

1 生涯学習活動の支援

(1) 生涯学習情報の充実

事業	事業内容（平成24年度目標）	平成24年度実績
①生涯学習ガイドの拡充	○生涯学習関連情報の収集と提供	○150部発行。講師、講座、団体、資料、物品、施設情報の掲載を行った。 ○各公民館・図書館・学校・コミュニティセンター・保健センター・老人福祉センター等の窓口への配布を行った。 ○市ホームページへの掲載を行った。
②図書館の利便性及び充実度の向上	○図書館資料の充実 ○行政情報発信基地としての資料提供	○利用者の多様なニーズに対応できるよう、各館の地域性に合わせた資料収集・提供に努め、図書整備の充実を図った。 ○郷土資料コーナーの設置及び郷土資料、行政資料の収集・整備に努めた。 ○市の情報及び地域情報の展示を行った。
施策評価	B	
評価理由	図書館各館の特徴に合わせて資料を充実させ提供することができた。ガイドを含め、提供した資料がどのように活用されているか、活用促進を図るためにはどうすべきかの検証が不足していると思われる。	
今後の課題	安定した資料の購入を継続し、利用者のニーズや行政情報発信基地として対応できるよう資料整備を行うこと。また、生涯学習ガイドの発行時期を早めること、内容の充実について検討する。	

(2) 多様な学習機会の提供

事業	事業内容（平成24年度目標）	平成24年度実績
①公民館を拠点とした学習機会の拡充	○印西市民アカデミーの充実 ○ICT関連事業の実施 ○子供対象事業の充実 ○大人対象事業の充実 ○団体や行政等との共催事業の充実	○印西市民アカデミー、1年生計25回（延べ546人）、2年生計18回（389人）を実施（中央公民館） ○パソコン講習会年3講座、計6回（延べ103人）を実施（中央公民館） ○初心者向けパソコン講座年2講座、計7回（延べ135人）を実施（中央駅前地域交流館） ○ジュニアコース年10回（延べ161人）、通学合宿年1回3泊4日（79人）、フラワーアレンジメント年2回（延べ16人）を実施（中央公民館） ○わくわく探検隊年12回（延べ168人）、運動遊び「友遊」年6回（延べ72人）、ものづくりチャレンジ講座年1回（10人）を実施（中央駅前地域交流館） ○はつらつクラブ年10回（延べ190人）、季節の料理講座年3回（延べ29人）を実施（中央駅前地域交流館） ○デイキャンプ（6公民館共催）年1回（16人）、家庭教育シニアフォーラム（視聴覚ライブラリー、生涯学習課共催）年15回（延べ223人）、マイペースパソコン塾（東京電機大学と共催）年10回（延べ151人）を実施（中央公民館） ○中央駅前地域交流館利用団体懇話会と共催により防災訓練を実施した。また、「印西BandStock ライブ2012」・ロックフェス年2回（延べ190人）、懇話会主催でリニューアル行事を4月に実施するとともに交流館まつりを実施した（中央駅前地域交流館）。
②図書館における学習機会の充実	○講座及び事業の充実	○各館において幼児・小学生を対象におはなし会を開催した（年間1,809人が参加）。 ○各館において図書館探検隊、図書館クイズ、科学あそび、クリスマス会等各種事業を実施した。 ○出前講座（年9回）、読み聞かせ（西の原保育園にて年3回）、ママレビュー講座（中央駅前地域交流館にて年9回）、つどいの広場（毎月第3金曜日）に講師を派遣した。 ○市民アカデミー（25人）、中学生職業体験（37人）、小学生職業体験（15人）、高校生インターンシップ（3人）、高校生職業体験（1人）、教員フォローアップ研修（1人）の実習受け入れを行った。
③市民の学習活動への支援	○出前講座の充実	○町内会、自治会等を通じた回覧を行い、出前講座の周知に努めた。 ○67件、延べ1,236名が受講した。
④人権学習の充実	○人権同和研修会への参加及び啓発	○県主催社会人権研修会に参加した（2回）。

	○家庭教育事業及び公民館講座への設定	○家庭教育シアターフォーラムで人権講座を実施した(12回、174名参加)。
--	--------------------	---------------------------------------

施策評価	B	
評価理由	公民館の主催事業では人気がある講座となかった講座があった。また、人権学習については前年度並みの参加者数であった。出前講座の町内会等を通じた回覧の効果もあり、出前講座を初め、年間の計画ペースでは概ね目標を達成することができた。	
今後の課題	公民館主催事業では市民のニーズを分析し、参加率の向上に努めたい。また、人権学習については研修会・家庭教育シアターフォーラムの周知を図るとともに、より参加しやすくなるように家庭教育シアターフォーラムの受講形態を検討していく。さらに各講座内容についての検証と考査を行う必要がある。	

2 生涯学習推進体制の充実

(1) 生涯学習施設の整備・充実

事業	事業内容(平成24年度目標)	平成24年度実績
①学習しやすい場の提供	○公民館や図書館等の適正な維持・改修	○中央公民館及び印旛公民館では開館日に閉館時まで学習室を開放している。また、その他の館では空室状況により学習室を設置している。 ○図書館内に図書館資料を使った学習のための席を設け、利用者に学習の場を提供した。

施策評価	B	
評価理由	公民館の学習室については毎日一定数の利用があり、今後とも設置をしていきたい。現状の範囲内で適正と思われる維持管理に努めた。	
今後の課題	施設の現状を把握し、大規模改修も含め、設備の維持管理について計画的に取り組んでいく必要がある。	

(2) 高等教育機関等との連携協力

事業	事業内容(平成24年度目標)	平成24年度実績
①大学等との連携強化	○大学等との連携協力 ○大学公開講座等の情報の提供 ○学校・社会教育関連施設の連携	○「親子でスポーツを学ぼう」をコンセプトに順天堂大学生涯学習公開講座(市・順天堂大学・酒々井町共催)を実施した。また、コーディネーション運動、陸上教室(俊足プログラム)、体操教室、サッカー教室の4回の講座を10月21日、28日、11月18日、25日の日曜日(全4回)に開催し、43名の参加を得た。 ○市民に対し、ポスター及びチラシを提供し、周知を図った。 ○主催事業の周知を行った。

施策評価	B	
評価理由	大学の高度な専門性を一般の市民も享受できる機会として、今後も連携を強化していく必要がある。	
今後の課題	大学の一部の協力にとどまっている感があり、高度な教育機能・資産の活用が十分に図られていないと思われる。大学側と市の連携協力でどのような取り組みができるか、例えば、産学官連携協議の中でも継続的に協議を行い、大学が複数校存在する恵まれた環境を活かした取り組みができないか検討が必要と思われる。	

3 青少年の健全育成

(1) 青少年の健全育成活動の推進

事業	事業内容（平成24年度目標）	平成24年度実績
①教育機関等との連携活動の強化	○印西市PTA連絡協議会等への支援 ○子供の放課後活動等支援事業の実施	○各団体主催事業への支援，協力を行った。 ○放課後子ども教室（2教室，34回 1,392人が参加）を実施した。
②青少年健全育成関係組織の充実と連携活動の強化	○各種団体との連携活動の促進	○青少年相談員連絡協議会，子ども会育成連絡協議会の活動，事業への支援及び協力を行った。
③青少年をとりまく社会環境の浄化と啓発活動の強化	○「こども110番」運営委員会への支援	○こども110番運営委員会を開催した（1回 7月）。協力家庭・事業者数は1,517件。
④地域・家庭教育力の向上支援	○地域ぐるみさわやかコミュニティ推進活動の支援	○家庭・地域・学校との連携，融合を調整する市内全域対象の啓発活動を実施した。 ○さわやかコミュニティ推進委員会を（19回）実施した。 ○市内6中学校区において，地域住民への実践活動を実施した。

施策評価	B
評価理由	PTA，青少年相談員連絡協議会，子ども会育成連絡協議会など，各団体の自主的活動を中心に健全育成の取り組みの充実が図られてきている。放課後子ども教室事業も概ね予定通り事業を実施することができた。
今後の課題	「こども110番」事業が取り組みから10年を超え，全体として協力家庭，事業所の確認作業を行っていない。実効的な効果を高めるためにも精査する必要がある。また，各団体の取り組みなどを見ても，現代的課題への対応については，まだまだ不十分に思われるので，支援や協力について検討を進めたい。 地域ぐるみさわやかコミュニティ事業については，年度当初の校長会，教頭会での説明以外にも各実施地区において，事業の目的及び趣旨等の説明を行っていく必要があると考えている。

(2) 家庭教育の推進

事業	事業内容（平成24年度目標）	平成24年度実績
①家庭の教育力向上事業の充実	○家庭教育学級の公立幼稚園・小中学校の開設及び活動内容の充実 ○公立幼稚園・小中学校との連携強化	○公立幼稚園・小学校・中学校における必修家庭教育学級（32学級），学年家庭教育学級（21学級），計53学級の開設を行った。 ○必修家庭教育学級講座（220回）を実施した。 ○家庭教育学級運営委員研修会（2回 5月，2月）を実施した。 ○家庭教育学級主事会議（2回 4月，2月）を実施した。
②家庭教育相談の充実	○相談体制の充実	○家庭教育指導員による指導・助言による相談体制の充実を図った。

施策評価	B
評価理由	参加者，修了生を含め，学級活動への参加については目標を上回る成果を上げることができた。また，主事会議，運営委員研修会も計画通り実施できた。各学級で実施した講座内容について，検証及び精査が必要と思われる。
今後の課題	幼稚園・小学校1年生，小学校6年生・中学校1年生というような学級同士の連携や結びつきから，家庭教育の連携が生まれ，参加者の増や修了生の増につながらないか，また講座内容の精査することでより実効的な効果が得られるよう，活動内容の充実を図る必要がある。

4 スポーツ環境の整備・充実

(1) スポーツ参加機会の拡充

事業	事業内容（平成24年度目標）	平成24年度実績
①スポーツ情報システムの充実	○公共施設予約システムの有効活用	○公共施設予約システム登録数 3,435組（535組の増）
	○スポーツ情報の集約と多様な情報の提供	○市ホームページ、体育協会ホームページ、広報紙へ各種行事等を掲載し、情報提供を行った。また、体育協会（年3回）の機関だよりの発行を支援した。
②市民参加型スポーツの普及・推進	○市民ニーズに対応した各種スポーツ教室の支援	○全13種目のスポーツ教育の開催及び支援を行った。
	○高齢者のスポーツ活動の支援	○指導者派遣事業やスポーツ備品等の整備及び貸出しを実施した。
③スポーツによる健康づくりの推進	○ニュースポーツ教室・大会の支援	○スポーツ推進委員によるショートテニス教室（6回）及び大会（2回）を開催した。
④市民ぐるみのスポーツイベントの推進	○スポーツセミナーの開催	○気軽にできるエクササイズ、ストレッチの講座を実施した。
⑤スポーツイベントの誘致	○イベントの開催や各種スポーツ教室・大会の支援	○実行委員会主催によるラグビーまつり、正月マラソンを開催した。
	○大規模なイベントの誘致	○関東大学女子駅伝、クライミングワールドカップを開催した。

施策評価	A
評価理由	クライミング教室及びリフレッシュ教室（ヨガ・体操）を行い、スポーツ機会の増加を図ることができた。
今後の課題	今後も市民のスポーツ機会の充実を図る。

(2) 特色あるスポーツ事業の展開

事業	事業内容（平成24年度目標）	平成24年度実績
①クライミングの普及・推進	○団体の育成と施設の整備検討	○印西市フリークライミング協会が設立し、定期的に整備を行った。

施策評価	B
評価理由	概ね順調に事業を行うことができた。
今後の課題	今後も、団体の育成や施設の整備を継続的にやっていく。

(3) スポーツ・レクリエーション施設の充実

事業	事業内容 (平成24年度目標)	平成24年度実績
①利用者の視点に立った施設運営	○スポーツ施設の管理・運営 ・総合体育館 ・陸上競技場 ・野球場 (8ヶ所) ・テニスコート (23面) ・弓道場 (2ヶ所) ・多目的運動広場 ・多目的球技場	○各施設の利用状況 79,654人 13,176人 68,830人 73,737人 1,674人 36,082人 25,423人
②学校体育施設利用の推進	○学校体育施設の利活用の推進	○市内小中学校28校を一般開放し、232団体・4,159人が利用している。(稼働率 小学校86% 中学校89%)
③スポーツ施設利用の多様化への対応	○民間施設の有効活用 ・東京電機大学平岡グラウンド ・印旛高校跡地野球場・多目的広場 ・六軒河川敷広場	○各施設の利用状況 16,927人 5,151人 2,500人

施策評価	B
評価理由	概ね順調に事業を行うことができた。
今後の課題	一部施設においては、大会規模により駐車場が不足している。

5 スポーツ推進体制の充実

(1) スポーツ指導者等の育成

事業	事業内容 (平成24年度目標)	平成24年度実績
①スポーツ指導者の育成	○スポーツ推進委員活動の促進 ○スポーツ少年団指導者の拡充と資質向上 ○生涯スポーツ等指導者の育成	○スポーツイベントの企画・立案を行った。(委員数 30名, 平均出勤日数 14日) ○県スポーツ少年団認定員養成講習会に参加した。 ○県・郡主催のニュースポーツ研修会等に参加した。
②スポーツリーダーバンクの構築	○スポーツリーダーバンク登録者の活用	○リーダーバンク登録者を取りまとめ、団体等からの要望に応じる体制を整えた。
③スポーツボランティアの育成	○スポーツボランティア活動の促進	○各種スポーツイベントをボランティアスタッフと連携し、運営した。
④スポーツ団体等の活動支援	○体育協会への支援と連携 ○スポーツ少年団への支援と連携	○体育協会の補助金を交付し、運営支援や市民大会等の開催を支援した。 ○スポーツ少年団へ補助金を交付し、市交流大会の実施や各大会の開催を支援した。
⑤競技力向上の推進	○市民スポーツ大会の開催 ○郡市民体育大会・県民体育大会への選手派遣 ○トップレベル選手との交流機会の提供	○体育協会が中心となり19競技41大会の開催を支援した。 ○郡市民体育大会において、339名を派遣し、17競技25種目、全ての競技に参加した。(総合順位 第2位) 千葉県民体育大会においては、12競技51名を派遣した。 ○ラグビーまつり、関東大学女子駅伝及びクライミングワールドカップの開催により、トップレベル選手との交流機会を提供した。

施策評価	A
評価理由	事業は概ね順調に実施できた。
今後の課題	各団体共に充実した活動を行っており、継続的な支援が必要である。

(2) 総合型地域スポーツクラブへの支援

事業	事業内容 (平成24年度目標)	平成24年度実績
①総合型地域スポーツクラブの育成	<ul style="list-style-type: none"> ○総合型地域スポーツクラブの設立支援 ○総合型地域スポーツクラブの充実 ○市民への啓発活動の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○設立希望団体へ説明会を行った。 ○スポーツ備品等の貸出し、活動場所の確保による支援を行った。 ○総合型地域スポーツクラブの啓発パンフレットを配布した。

施策評価	B
評価理由	新規立候補地区において、説明会を行うことができた。既存のスポーツクラブへはさまざまな面での支援を行うことができた。
今後の課題	総合型地域スポーツクラブの課題として「指導者及び会員の確保」があり、既存スポーツクラブも順調に活動しているが、同じ課題を抱えている。(新規スポーツクラブを設立する場合においても同様)

Ⅲ. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る[文化]

1 文化・芸術活動の推進

(1) 芸術・文化に触れる機会の拡大

事業	事業内容 (平成24年度目標)	平成24年度実績
①文化・芸術事業の充実	○文化ホール主催事業等の実施	○文化ホール主催で鑑賞型事業を8事業、鑑賞型・参加型事業を2事業、地域文化振興型事業を1事業、計11事業実施した。

施策評価	B
評価理由	自主事業の中で有料の事業が8事業あるが、その入場率は66%とやや低く、さらに多くの市民が文化に触れあえるよう努める必要がある。
今後の課題	芸術文化との触れあう機会を提供するため、事業はこのまま推進していくものの、事業内容や予算を精査しより多くの市民に文化の振興を図るとともに支出の軽減を図る。

(2) 市民の自主的な活動の支援

事業	事業内容 (平成24年度目標)	平成24年度実績
①芸術・文化活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○市民文化祭の実施 ○芸術文化団体活動への支援 ○子供たちの芸術・文化活動への支援 ○芸術文化情報の提供 ○文化・芸術の振興に関する基本的な方針の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ○第17回印西市民文化祭を実施した。 展示部門・催し部門(3事業)・大会部門(4事業)・発表部門(6事業) 期間:10月14日~11月18日 会場:本荘公民館(展示・催し)、文化ホール(発表)、総合福祉センター・中央公民館(大会) ○共催や後援など、活動・発表の場のサポート、事業実施内容の情報提供を行った。 ○印西市文化芸術の振興に関する基本方針において、支援に関する基盤を整備した。 ○公民館、文化ホール等の窓口へのポスター・チラシ等の配布、関係団体への資料提供を行った。 ○平成25年3月21日「印西市文化芸術の振興に関する基本方針」を制定した。
②地域文化活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○地域文化活動の拠点支援 ○市民の地域文化活動への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○対象となる事業が無かったため、実績なし。 ○文化ホールホワイエにて、ロビーコンサートを13回実施した。また、市民招待席に23組の展示を実施した。 ○印西市木下地区歴史講座事業への支援のほか、印西ふるさと案内協会や印西地域史研究会の歴史講座事業を後援し、活動支援を行った。

施策評価	B
評価理由	事業は概ね順調に実施できた。文化祭の展示部門においては、本荘公民館に会場を移し参加者・見学者共に増加した。
今後の課題	印西市文化芸術の振興に関する基本方針に基づき、総合的・計画的に文化芸術の振興を図る。

2 文化財の保護・活用

(1) 文化財の保護

事業	事業内容（平成24年度目標）	平成24年度実績
①指定文化財保護事業	<ul style="list-style-type: none"> ○文化財審議会の運営 ○有形文化財、史跡及び天然記念物の保存 ○無形民俗文化財の継承支援 ○文化財の普及啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ○7月と3月に2回の審議会を開催し、文化財行政に係る各種事業について審議した。 ○道作古墳群整備に向け、地権者等との協議を実施した。 ○指定文化財の各所有者に対し、保存・管理に対する指導及び助言を行ったほか、伝承継承活動に対し補助金を交付し、支援を行った。 ○無形民俗文化財の公開事業を実施した。
②文化財基礎調査事業	<ul style="list-style-type: none"> ○仏像調査・石造物調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○追加資料の仏像調査および調書整理、原稿執筆作業を実施したほか、旧本埜村笠神・埜原地区において石造物調査を、旧印旛村萩原・大廻・鎌苅・造谷・師戸・岩戸地区において市内埋蔵文化財分布調査をそれぞれ実施した。
③埋蔵文化財の保護事業	<ul style="list-style-type: none"> ○市内主要遺跡調査の実施 ○埋蔵文化財の取扱い事務及び埋蔵文化財包蔵地の保護 	<ul style="list-style-type: none"> ○当該遺跡が無く未実施。 ○発掘調査の実施により、開発行為から埋蔵文化財を保護した。

施策評価	A
評価理由	各事業について、概ね順調に実施できた。
今後の課題	道作古墳群の整備や仏像調査の報告書刊行など、これまでの成果の公表に向け具体的に取組んでいく必要がある。また、その他の基礎調査に関し、成果の公表に向けた準備が課題となる。

(2) 文化財の活用

事業	事業内容（平成24年度目標）	平成24年度実績
①文化財の活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ○有形文化財、史跡及び天然記念物の活用 ○無形民俗文化財の公開 <ul style="list-style-type: none"> ①八幡神社の獅子舞(市) ②鳥見神社の獅子舞(県) ③別所の獅子舞(市) ④いなぎの獅子舞(市) ⑤鳥見神社の神楽(県) ⑥浦部の神楽(県) ○埋蔵文化財の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校への民具資料の出前講座を1月～2月に実施し、多くの児童の参加を得た。(3年生：4校(206人)) ○公開事業実施日 <ul style="list-style-type: none"> ①平成24年4月15日 ②平成24年5月3日 ③平成24年8月24日 ④平成24年9月22日 ⑤平成24年10月17日 ⑥平成23年10月21日 ○該当する箇所が無く事業未実施。 ※資料館事業参照（出土品の展示及び出土品を教材とした体験教室の実施） ○資料の展示、収集、整理・保管、調査研究、普及事業を実施した。また、常設展示（見学者数903人）及び第4回企画展示「印西のはじまり」を実施するとともに、普及事業として資料館講座、体験教室等を実施した。
②印旛歴史民俗資料館運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ○資料館資料の実施 	

施策評価	B
評価理由	埋蔵文化財の活用事業を除き、概ね事業を実施できた。
今後の課題	文化財保護事業による成果を含め、資料館事業と調整して文化財の普及・啓発事業を計画的、効果的に実施する。

3 市史編さん事業の推進

(1) 市史編さん事業の推進

事業	事業内容（平成24年度目標）	平成24年度実績
①市史編さん事業	<ul style="list-style-type: none"> ○市史編さん計画の整備 ○市史の調査研究 ○市史研究誌の刊行 ○市史講座等の実施 ○市史刊行物の頒布 	<ul style="list-style-type: none"> ○印西市史編さん事業基本方針を定めた。 ○未実施 ○「印西の歴史第7号」及び「印西の歴史第7号別冊平成24年度印西市史普及事業考古学公開セミナー印西の遺跡から縄文文化の謎を探る記録集」の刊行 ○印西市史普及事業考古学公開セミナー「印西の歴史から縄文文化を探る」 実施日：平成24年12月2日（日） 実施場所：中央公民館講堂 講師：三浦和信氏他4名 参加者：90名 その他：出土品の展示、刊行物の販売 ○市史編さん講演会「印西牧の開発と野馬土手の構築」 実施日：平成25年2月10日（日） 実施場所：中央駅前地域交流館 講師：佐々木克哉氏 参加者：95名 その他：資料展示、刊行物販売 ○418冊を有償頒布した。また、印西の歴史第6号374冊を関係機関に頒布した。 有償頒布場所：市役所生涯学習課、資料整理事業所、各公民館、中央駅前地域交流館、印旛歴史民俗資料館

施策評価	B
評価理由	市史の調査研究以外は目標どおりに事業の実施ができた。
今後の課題	印西市史編さん事業基本方針に基づいた事業を実施する。

(2) 地域史料の保存と活用

事業	事業内容（平成24年度目標）	平成24年度実績
①地域史料の保存及び活用	<ul style="list-style-type: none"> ○地域史料の調査及び収集 ○地域史料の整理保存及び活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○調査は未実施 収集 寄贈2件7点、寄託1件1点 ○保管資料 31,500点以上 古文書目録電子データ化 2件1,000点 古文書目録カード作成及び中性紙袋への史料の入れ替え 2件3,319点 史料活用（閲覧15件193点、掲載8件14点）
②歴史公文書の収集、整理保管	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史公文書の引継移管 ○歴史公文書の調査研究 	<ul style="list-style-type: none"> ○平成24年度引継 文書保存箱60箱 833件 総数 1,255箱（印旛歴史民俗資料館保管分は除く） 閲覧5件 ○未実施

施策評価	B
評価理由	地域史料及び歴史公文書の調査研究以外は目標どおりに事業が実施できた。
今後の課題	市史編さん事業に関連した地域史料及び歴史公文書の調査収集を進め、整理保管を行い、市史刊行事業を進める。

おわりに

1 評価内訳

具体目標における主な事業毎の評価内訳は、以下のとおり。

I. 生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕

1 健やかな心と体を育む教育の推進

番号	重点施策	評価
(1)	きらり輝く印西の子供の育成	B
(2)	読書活動の推進	B
(3)	学校給食を通じた食育の推進	B
(4)	学校保健体育・学校環境衛生の推進	B
(5)	豊かな心を育む教育の推進	B
(6)	幼児教育の充実	B

2 活力ある学校づくり

(1)	学習指導の充実	B
(2)	一人ひとりへのきめ細やかな教育支援の推進	B
(3)	国際理解教育の推進	B
(4)	教育の情報化推進	B
(5)	特別支援教育の推進	B
(6)	学校・幼稚園施設の充実	B

3 学校・家庭・地域の連携強化

(1)	学校安全事業の推進	B
(2)	学校情報の積極的な提供	B
(3)	地域教育力の活用	B

II. 生涯学習を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する 〔生涯学習・生涯スポーツ〕

1 生涯学習活動の支援

(1)	生涯学習情報の充実	B
(2)	多様な学習機会の提供	B

2 生涯学習推進体制の充実

(1)	生涯学習施設の整備・充実	B
(2)	高等教育機関等との連携協力	B

3 青少年の健全育成

(1)	青少年健全育成活動の充実	B
(2)	家庭教育の推進	B

4 スポーツ環境の整備・充実

(1)	スポーツ参加機会の拡充	A
(2)	特色あるスポーツ事業の展開	B
(3)	スポーツ・レクリエーション施設の充実	B

5 スポーツ推進体制の充実

(1)	スポーツ指導者等の育成	A
(2)	総合型地域スポーツクラブへ支援	B

Ⅲ. 心に豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る〔文化〕

1 文化・芸術活動の推進

(1)	文化・芸術に触れる機会の拡大	B
(2)	市民の自主的な活動の支援	B

2 文化財の保護・活用

(1)	文化財の保護	A
(2)	文化財の活用	B

3 市史編さん事業の推進

(1)	市史編さん事業の推進	B
(2)	地域史料の保存と活用	B

※ 評価基準

- A 事業の目標が達成され、計画以上の施策の進捗が認められる。
- B 事業の目標が概ね達成され、施策の進捗が認められる。
- C 未達成事業が多く、施策の進捗がほとんど認められない。

2 施策別評価

主な施策における主な事業の評価内訳数は以下のとおり

番号	主な施策	主 な 施策数	主 な 事業数	主な事業の評価数		
				A	B	C
I	生きる力を持ち未来を拓く 子どもを育む〔学校教育〕	3	15	0	15	0
II	生涯を通して学びスポーツ に親しめる環境づくりを推 進する 〔生涯学習・生涯スポーツ〕	5	11	2	9	0
III	心に豊かさをもたらす文化 の保護と振興を図る〔文化〕	3	6	1	5	0
計		11	32	3	29	0

3 まとめ

平成24年度版「印西市の教育施策」の点検及び評価を行った結果、I～IIIの目標を達成するために掲げている全11の主な施策、32（昨年度から1事業増）の主な事業中、A評価が3施策、9割以上の29施策がB評価でありました。これは、実施事業にA評価の要素となる「目標が達成されている」事業があるものの、「計画以上の施策の進捗が認められる」とまでは評価できず、B評価の要素となる「目標が概ね達成されている」事業が大部分であると評価されたことによるものであります。

しかしながら、B評価は「事業の概ね達成、施策の進捗」を意味することから、全体として市の教育施策は進捗しており、今後も更なる施策の推進を目指してまいりたいと考えております。

なお、学識経験者の皆様からは、主に次のような御意見をいただきました。

この御意見につきましては、報告書素案時にいただいたものです。報告書の記載内容など、すぐに反映できるものにつきましては、最終報告書に反映しております。

（学校教育分野）

印西市教育委員会は、学校教育における必要で大切な事業をきめ細かく計画し、取り組むべきポイントを精査し、学校（園）現場等の関連機関に指示、対応を求めるなど公教育の中心的な部署となっている。そして、教育委員会を構成する人々が努力し、活躍されており、さらに大多数の市民から信頼されていると感じている。

健やかな体、豊かな心、確かな学力を育むことを目的とした平成24年度の学校（園）現場を見て、生き活きとした児童・生徒の様子から教育委員会

と現場が協力・連携しながら着実に歩んでいることがうかがえる。これも現場での授業実践や実技研修等により、教職員の力量が高まっているからであると考え。その教職員の向上を支えているのが、市教育委員会の組織であり、そこで業務に当たっている人々の物心両面からの援助である。市教育委員会と現場の協働の賜であると思える。

現場の人的環境を見ると、少人数指導，専科教諭，介助員，指導員，支援員等が適切に配置されており，さらに学習ボランティア等も加えると恵まれた環境であると言える。このような中でそれぞれの学校（園）が地域の特性を踏まえて教育活動を展開しており，学力面，運動面，芸術面で独自性を出していると思われる。このことから，印西市で育つ子ども達は個性や能力を限りなく伸ばしていけるのではないかと考える。

印西市は特に，他の市町より特別支援教育やICTの活用による学校ホームページが充実しており，個に応じた教育の充実と今後の教育を模索していく上で素晴らしいことであると思う。

校舎の耐震改修工事や放射性物質の除染作業が完了したことは安心・安全の一部を確保したと言える。しかしながら，安心・安全に関する取り組みは毎年，対象が変わることもあり，これで万全という終わりが無い。小さな事故から大きな災害までを想定した取り組みを今後も継続していただきたい。

全ての項目において，評価は控え目なものとなっているが，成果には安心を覚えるとともに評価理由や今後の課題は適切であると考え。

（生涯学習分野）

主な政策及びそれを受けた主な施策が体系的に整理されており，大変理解しやすい点検・評価であります。また，生涯学習関係においては評価理由や今後の課題が具体的によく示されており，担当者の意欲をひしひしと感ずることを冒頭に述べたいと思います。

<Ⅱ 生涯を通して学びスポーツに親しめる環境づくりを推進する>

「1 生涯学習活動の支援」の各項目の評価はそれぞれ妥当であると思います。

生涯学習が教育の中核であり，「生涯学習によるまちづくり」と言われて数十年が経過しております。地域住民の学習意欲を高め，学んだ成果を地域社会の発展のために還元することにこそ，公的機関が推進する教育の意味があると考えます。こういう点から考えてみると，印西市の生涯学習課では，生

涯学習情報の充実や多様な学習機会を提供しており、素晴らしいと思います。つまり、生涯学習課では生涯学習ガイドを拡充し、各図書館で郷土資料コーナーの設置や行政資料の収集・整備等利用者の多様なニーズに対応できるように各館の地域性に合わせて整備していることなどは、生涯学習の基盤づくりとしてその役割を益々果たすことと期待されます。また、公民館及び図書館等での事業や講座の充実、市民の学習活動の支援としての出前講座開催等多くの住民が参加しています。

この現状に飽き足らず、市民のニーズを更に分析して、一層の参加率の向上を図ることを課題としています。参考までに自分が印西市民アカデミーを8年間担当して感じたことは、アカデミー生一人ひとりに、何らかの形で社会に貢献したい、充実した人生を送りたいという意欲をひしひしと感じました。自分が住んでいる地域の歴史や自然・産業についてもっと学びたい、市の行政方針や実践について学びたい、幼児・児童との世代間交流を図りたい、地域の高齢化の進行に伴って安心・安全のまちづくりについて学びたいといった学習意欲が高まっており、これらに対応した事業の実施を望んでおりました。今後も住民が求める学習内容を継続していただくとともに、更なる学校との連携による児童・生徒対象の事業（例えば小学生の通学合宿や中学生の子育て体験等）の充実と拡張、また福祉や環境など様々な課との連携による今日的な課題を横断的に進める学習を切望します。

また、人権教育については、研修会や家庭教育シアターフォーラムの周知を図るとともに、より参加しやすくなる受講形態の検討を図ることを課題としていることに同意します。一方、公民館等で活躍している団体やグループに対しても、生涯学習の意義について指導・助言を積極的に行うと同時に、住民の学ぶニーズに応ずる情報の収集や提供、相談体制の整備を更に進められることを希望します。

生涯学習活動の推進には、職員数の確保と職員の専門性や指導力を向上させることが急務であります。財政が厳しいと言われていますが、生涯学習活動を充実させることはまちづくりの大きな要因になることをご理解いただき、是非職員の充実を図っていただきたいと思います。

「2 生涯学習推進体制の充実」の各項目の評価も妥当であると考えます。

各公民館や図書館において、住民が静かな環境の中で学べる教室を可能な限り提供していることは大変良いことだと思います。また、高等教育機関等の連携協力については課題として示されていますが、印西市には高校、大学の高等教育機関が複数設置されています。その特色ある地域性を活かせるよう、先進地の実践例に倣い、生涯学習機関として本格的に連携させることを期待します。

「3 青少年健全育成」の各項目の評価も妥当と考えます。

青少年健全育成については、誰もが努力しなければならない課題と思いつ

つも、その実践になると難しい状況であると常々思っており、特に、学校と連携して進めなければならない家庭教育学級が以前と比べて、停滞しているように感じます。報告書では、平成24年度の参加実績について、目標を上回る成果を上げたとしながらもその内容の充実を図るためには、実施した講座の内容やその活動内容について検証や精査が必要であるとし、精査を行うことで学級同士の連携や結びつきにつながり、参加者や修了生が増加し、家庭教育の連携が一層高まるのではないかとしています。是非とも講座内容、活動内容の検証、精査し、それらの充実を図ることで家庭教育学級が推進することを期待します。

一方、青少年の健全育成については、小さい頃から様々な人と触れあわせ、様々な体験をさせることが基本であり、異年齢の小学生、小学生と中学生や高校生、また地域の様々な大人との交流を通して逞しく成長すると考えます。そういう意味で青少年健全育成協議会や子ども会育成協議会、PTA、地域ぐるみさわやかコミュニティ、子ども110番等各団体の自主的活動を市は積極的に推進、支援していると考えます。また、これらの活動が設立から長い期間を経てマンネリ化しつつある今日、今後の課題として、それぞれの活動をもう一度見つめ直し、現代的課題に対する新たな活動を図るとしていることに担当者の意欲が感じられます。

放課後子ども活動支援事業については、これからの事業として大いに期待していますが、これと併せて、子育て支援課で実施している「学童保育事業」の充実について、学校や生涯学習課も連携してできないものかと考えます。なぜならこの事業は異年齢の子ども達で構成されていることから、上級生が下級生をリードしたり、下級生は上級生の優しさや逞しさに触れたりするなどの、現在では見られなくなった子ども達ならではの社会を形成することができるからです。更に保護者に向けた家庭教育も進めやすいと考えます。

最後に、地域の大人達全てが地域の子どもの善行等を認め、学校や教育委員会へ電話で報告する「子どもの素敵な心見つけホットライン」を提案します。そして、子どもたちを核に、地域全体でお互いを認め合う社会が形成されることを期待します。

<Ⅲ 心豊かさをもたらす文化の保護と振興を図る>

「1 文化・芸術活動の推進」の各項目の評価は妥当であると考えます。

芸術文化に触れる機会の拡大の項目中、文化ホール主催事業で11事業を実施し、その中で有料の8事業の入場率がやや低いという結果がでていますが、評価や課題の項目にあるように事業内容や予算を精査して支出の軽減を図り、芸術・文化に触れあう機会を今まで以上に提供してもらいたいと思います。市民の自主的な活動の支援の項目については、事業は概ね実施できたとの評価であります。特に、昨年度の懸案事項であった市民文化祭の展示部門では、参加者や見学者が増加したと成果を述べています。その成果を検証しつつ、更なる対策を願うものであります。

「2 文化財の保護・活用」についての各項目の評価も妥当であると考えます。

指定文化財保護事業や文化財基礎調査事業等順調に進んでいることを高く評価します。仏像調査や石造物調査等を本埜・印旛地区で精力的に実施されていること、また、市全体の中で指定されていない文化財や史跡について、案内板等が以前に比べると計画的に設置されており、担当者の意欲を感じます。地域住民にとってはこれらの文化財や史跡に対する関心や愛着が高まってきており、今後の一層の努力を期待するとともに、発作や亀成地区に残る水禍の歴史を伝える水塚の保存をお願いしたいと考えます。

一方、文化財の活用については、市史資料等は活用することや多くの市民に理解してもらうことに意義があると考えます。その点において、文化財活用事業を計画的に実施されていること、常設展示だけで903名も見学者があった印旛歴史民俗資料館の運営事業は素晴らしいと思います。更には、未来に生きる子ども達がもっとこれら文化財等を学ぶ機会があればと常々思っていますが、その為には学校の教師の意識の変容と社会科教育の改善が必要であり、指導課と連携を図り、地域に根ざした教育を推進することによって、地域の民具資料等を活用する授業も増えると考えます。

「3 市史編さん事業の推進」については、市史講座等を実施しており、市民を郷土の歴史等に引き付ける素晴らしい企画であったと思います。私も参加しましたが講師の分かりやすく、かつ奥の深い話に引きずり込まれました。参加者も多く、会場は熱気で包まれておりました。更に市史編さん事業を積極的に推進されることを希望いたします。

最後に、冒頭に述べましたが評価理由や今後の課題で担当者の意見や思い、各事業をさらに向上させようとする意志を具体的に感じる事が出来ました。

(スポーツ振興分野)

市スポーツ施設の利用状況は、総合体育館を始め、屋外スポーツ施設においても利用率は高く、各種の市民大会、小中学校体育大会、郡内・県内のスポーツ競技大会など、施設利用の促進にも積極的に努め、多くのスポーツ愛好者に活用されていることを頼もしく感じている。

市スポーツ振興では、スポーツ振興基本計画に基づき「するスポーツ」「観るスポーツ」「支えるスポーツ」を推進するため、競技スポーツは基より、年齢層に応じた様々な教室やスポーツイベントを展開しているものと伺えるが、引き続き市民ニーズの把握に努めていただき、なお一層の生涯スポーツ活動の充実が図られることを期待する。

また、市の特徴的な施設であるクライミングウォールを活用した「リード

ワールドカップ」が開催され、観る・応援する・感動を分かち合うスポーツイベントとなったことは、スポーツがもたらす一体感や重要性を改めて感じさせて頂いた。

誰もが認識していると思うが、スポーツは、単に健康や体力づくりを図るだけでなく、仲間づくりや礼儀やマナーなど情操教育にも大きく貢献することから、今後も様々な手法や仕組みを検討され、市のスポーツ振興となる事業展開を期待します。

貴重な御意見，ありがとうございました。

今後の教育施策に活かすため，検討してまいります。

この点検評価報告書の作成の意義として，市教育委員会がその所掌事業について自己点検を行うことで現状を把握し，計画の実現に向けて事業の精査を図るとともに外部学識経験者の皆様からいただいた御意見を検討し，翌年度の教育施策に反映させることであると考えております。

つきましては，今回の点検・評価をもとに重点施策ごとの今後の課題の克服に努め，事業の合理化を進め，市民のみなさまの御意見を取り入れながら，必要に応じて現行施策の見直しを図り，重点施策の進捗，教育施策に掲げる目標の達成に努めてまいります。